

日本ロシア文学会会報 第55号 2026年3月

1. 会長挨拶
2. 2025年度第75回総会報告
3. 10月・12月理事会関連事項
4. 会員異動
5. 新役員・委員
6. その他
7. 事務局からのアナウンス

1. 会長挨拶

野中進

昨年10月から会長を務めている野中進です。まだご存じでない方もいらっしゃるかもしれないので、あらためてご挨拶させていただきます。

2022年2月以降、ロシアとの「距離」の取り方に意識的であらざるを得ない日々が続いています。それは個々の研究者も学会全体も同じでしょう。一方ではウクライナの人々が受ける災禍に思いを致さずにはられません。他方、自分たちが長い時間と多くのエネルギーを費やして学んできたロシアの文学・文化、そして友人たちとどのように付き合い続けられればよいのか、悩んでいる会員も多いのではないのでしょうか。そうしたことをもっと自由に話せる雰囲気を作れるといいなという気がしています。

ロシア語・ロシア文学・文化の研究・教育・社会発信について言えば、若手・中堅・ベテランと世代を問わず、精力的かつ着実に取り組まれている会員が多いのは、学会として誇るべきことでしょう。著作、論文、翻訳、学会報告やシンポジウム開催などで多くの成果が挙げられていることを喜ばしく思います。専門的知識に基づいた活動こそ、専門家が社会に対して果たすべき第一の課題です。この課題をより高いレベルと広がりで達成するためにこそ学会があるということを見失わないようにしたいと考えています。

さて、昨年の全国大会は東京大学（駒場キャンパス）で行われました。あらためて大会組織委員会（委員長：坂庭淳史さん）、大会実行委員会（委員長：鳥山祐介さん）の皆さまに、学会を代表してお礼申し上げます。

今年の全国大会は、10月17-18日、神戸大学で開催されます。大会組織委員会（委員長：坂庭淳史さん）、大会実行委員会（委員長：高田映介さん）の皆さま、どうぞよろしく願いいたします。また会員の皆さまにおかれましては、積極的な報告・企画類のご応募をお願いします。

全国大会と並ぶ学会のもう一つの顔は、言うまでもなく、学会誌ですが、現在、『ロシア語ロシア文学研究』第58号の編集作業が進んでいます。平松潤奈さんには二期目の委員長をお願いしています。学会誌編集委員会、査読者の皆さま、どうぞよろしく願いいたします。

その他、多くの委員会や支部がそれぞれに活動することで学会活動が成り立っています。会長になってみて、その有り難みをひしひしと感じます。この場を借りて、学会を支えて下さる多くの方々にお礼申し上げます。

今後もロシア文学会が専門家集団として広範に活動していけるよう、会長としてできることをしていきたいと考えています。気がついたことやご提案など、ご遠慮なくお寄せくださいますようお願いいたします（nonakasmusu1967@gmail.com）。

2. 2025年度第75回総会報告

第75回定例総会・研究発表会は、2025年10月25日（土）・26日（日）の両日、東京大学駒場Iキャンパスで開催されました。10月25日（土）午後開催された定例総会の主な内容は以下の通りです。

- **開会の辞** 会長：中村唯史（以下敬称略）
- **日本ロシア文学会賞表彰** 【論文部門】該当者なし / 【著作部門】該当者なし

学会賞選考委員会による選考の結果、今年度は論文部門、著作部門ともに該当者なしであることが報告された。

● 日本ロシア文学会若手ワークショップ企画賞表彰

中村会長より、今年度は残念ながら、応募がなかったことが報告され、若手会員に積極的な応募が呼びかけられた。

● 議長団選出

自薦他薦がなかったので、執行部・事務局から、岡野要氏（関西中部支部）、梶彩子氏（関東東北支部）、高橋沙奈美氏（西日本支部）の三名が候補として提案され、全会一致で承認された。

● 会長選挙

選挙管理委員会の委員長秋山真一氏より、選挙管理委員の菅井健太氏（北海道支部）、大森雅子氏（関東東北支部）、岡野要氏（関西中部支部）、松枝佳奈氏（西日本支部）が紹介されたのちに、一次投票の結果、有権者数の過半数を超える被選挙者がいなかったことが報告された。この結果、一次投票で得票数上位三名となった貝澤哉氏、沼野恭子氏、野中進氏（五十音順）を候補とする決選投票が、総会出席者によって行われた。1回目の決選投票では、総会出席者の過半数を超える票を得た候補者がいなかったため、更に上位二名となった沼野恭子氏と野中進氏を候補とする2回目の決選投票が実施された。投票の結果、野中進氏が新会長として選出された。新会長の野中進氏より、就任の挨拶が述べられた。

● 報告事項

1. 事務局報告

庶務会計笹山啓氏から、配布資料1に基づき会員移動（2024年10月~2025年10月）について報告があった。

2. 各種委員会報告

【広報委員会】

- ・ 本田晃子委員長から、前回2024年の総会から、HPの更新が106件、MLの配信が120件あったとの報告が行われた。
- ・ 本田委員長から、各会員がメールアドレスを変更した場合、メーリングリストとシクミネットとが連携していないため、シクミネット上で各自で変更手続きを行うとともに、広報委員長にも連絡してほしいとの要望が述べられた。

【大賞選考委員会】

- ・ 野中進委員長から、沼野恭子氏を2024年の大賞受賞者として決定し、7月の理事会で承認され、本日（10月26日）、受賞記念講演が開催されたとの報告が行われた。

【学会誌編集委員会】

- ・ 平松潤奈委員長から、会誌57号が刊行されたことが報告された。
- ・ 平松委員長から、57号に掲載されたロシア語による論文の著者から英語のレジюмеを付けたいという希望があり、編集委員会の裁量でこれを許可したことが報告された。また平松委員長から、このような経緯をうけ、58号以降の「会誌原稿執筆要項」の規定を変更し、欧文で書かれた論文にも本文以外の言語によるレジюмеの必須化を明記することを委員会として理事会に諮り、承認済みであることが報告された。

【75周年記念事業WG】

- ・ 座長の坂庭淳史氏より、インタビュー集が無事刊行されたこと、また紙媒体に加え、PDF版が学会HPで閲覧可能になっていることが報告され、ご協力いただいた方々への謝辞が述べられた。

● 審議事項

1. 事務局庶務会計笹山啓氏から、配布資料 2 に基づき、2024/2025 会計年度決算について諮られた。笹山氏より、資料の「III 基金」のうち学会基金の利子と合計の項目が「未確定」となっている点について、同氏の居住地である富山県に三菱 UFJ 信託銀行がなく、監査実施日までに通帳記帳を行うことができなかったことが原因であると説明された。また、本日(10月25日)に都内にて通帳記帳を行い、利子が536円、合計2,528,608円であること、また12月の理事会で修正申告を行う予定であることが口頭で報告された。以上の点について諮られ、これらが承認された。その後、三浦清美監事から、同監事及び柳町裕子監事による会計監査について報告が行われた。

中村会長より会計監査の署名の方法について、2023年10月の総会にて、監査手書きにおける押印の省略が認められたが、今後は監査をオンラインで実施することも可とし、それに伴い手書きによる署名の代わりに、「承認を明記したメール文書を証明書類とする」あるいは「電子署名」などを活用していくことが提案された。以上が諮られ承認された。

2. 事務局庶務会計笹山氏から、配布資料 3 に基づき、2025/2026 会計年度予算案について諮られ、これが承認された。
3. 中村唯史会長から、配布資料 4 に基づき、日本ロシア文学会規約の制定について報告があり、これが諮られ、承認された。
4. 中村唯史会長から、配布資料 5 に基づき、役員選出規定の一部改正 [該当箇所：I の (7) と III の (2)] について説明があった。これが諮られ、承認された。
5. 中村唯史会長から、来年 2026 年度の大会について、神戸大学国際文化研究科に開催校をお引き受けいただくことについて諮られ、これが承認された。その後、開催校の大会実行委員長の高田映介氏から挨拶があった。
6. 中村唯史会長から、配布資料 6 に基づき、2025/2026 年度役員・理事・各種委員について諮られ、これが承認された。

● その他

- ・ 九州大学の高橋沙奈美氏より、第 13 回スラヴ・ユーラシア研究東アジア大会が、2026 年 5 月 29 日～31 日に九州大学で開催されるとの周知があり、また積極的なエントリーが呼びかけられた。

● 議長団解任・閉会の辞

議長団が解任され、坂庭淳史副会長が閉会の辞を述べ、閉会となった。

3. 10月・12月理事会関連事項

10月理事会は10月25日(土)に対面で開催され、12月理事会は12月21日(日)に対面とオンライン(Zoom)を併用したハイブリッド形式で開催された。主な報告事項および審議事項は以下のとおり。

- 10月理事会(前節の総会報告を参照)

- 12月理事会

日時：2025年12月21日(日)14:00 - 17:00

開催方式：早稲田大学（戸山キャンパス）33号館3階第1会議室/Zoomによるハイブリッド開催

（以下敬称略）

議事に先立ち野中進会長から、配布資料に基づき、前回理事会（2025年10月）議事録ならびに、前回総会（2025年10月）議事録について確認が行われた。

● 承認事項

- ・ 2025/2026年度役員・理事・各種委員一覧について、会長の野中進氏より、10月理事会以降の追加事項として以下の報告があった。副会長として小椋彩氏および坂庭淳史氏、JCRES幹事として小椋彩氏、社会連携委員会委員長として高橋健一郎氏、関東東北支部理事として沼野恭子氏が着任すること、ならびに大会組織委員会および実行委員会に新たなメンバーが加えられることが報告され、これらが承認された。
- ・ 事務局の庶務会計笹山啓氏から、配布資料に基づき、会員異動（2025年10月～2025年12月）について以下の報告が行われた。（敬称略・五十音順）

➤ 退会

山田隆（北海道）

➤ 入会希望（正会員）

サンジェーエフ・アムガラ（関東東北）社会思想史、チャーターノフ、ノヴゴロツェフ

推薦者：前田和泉、巽由樹子

● 報告事項

1. 事務局報告

- ・ 庶務会計の笹山啓氏から、配布資料に基づき、学会財政レポートが行われた。
- ・ 会長の野中進氏から、会費の納入方法が郵便振り込みからシクミネットへ移行してから維持会費の納入が大幅に減っていることが指摘された。維持会費支払い方法は、シクミネットの通常の会費支払い方法とは、別の項目を選択する必要があると、こちらの納入方法を浸透させる努力をしていくことが確認された。

2. 2025年度第75回大会組織委員会

- ・ 副会長の坂庭淳史氏から、配布資料に基づき総括が報告された。今回キャンセルとなった発表が2件あり、事前にホームページやメーリングリスト等で周知するかどうかについて議論が行われた。今後の同様の事案が生じた場合の対応については、組織委員会および実行委員会の判断に委ねることが報告された。なお、それ以外については、全体として大きな問題もなく円滑に運営されたとの報告があった。以上が確認された。

3. 会長選挙について

- ・ 欠席した選挙管理委員会委員長の秋山真一氏に代わり、事務局の北井聡子氏より、配布資料に基づき、10月総会で実施された会長選挙について報告が行われた。今回の選挙から、一次投票においてオンライン投票が導入されたことにより、作業の簡略化が図られ、投票率向上というメリットがあったことが報告された。一方で、メールアドレスを有しない会員に対しては、従来通り個別に郵送による対応が行われたが、対象者数が少ないため投票者の匿名性が担保できないという課題があることも指摘された（尚、今回は郵送による投票数はゼロ）。郵送投票については、今後も引き続き検討課題とすることが確認された。

4. 若手企画賞の次期募集について

- ・ 副会長の坂庭淳史氏より、配布資料に基づき、若手企画賞の募集が例年どおりすでに開始されていることが報告された。また、昨年度は応募がなかったことを踏まえ、若手会員に対して積極的な参加を呼びかけてほしい旨の要望が示された。

5. 各種委員会報告

【学会誌編集委員会】

- ・ 委員長の平松潤奈氏より、配布資料に基づき、会誌第 58 号の進捗状況と今後の予定が報告された。また会誌第 57 号が 12 月末までに J-STAGE 上に公開予定であるとの報告が行われた。
- ・ 今回エントリーのあった投稿者のうち 3 名が、すでに第 57 号にも掲載されている執筆者であったことが報告され、同一人物による連続掲載について一定の制限を設けるべきかどうかという点が指摘された。

これに対し、以下のような意見が述べられた：

A: 学会誌は新しい科学的成果を伝えるものであり、新たな発見があった場合にその掲載を制限すべきではない。ただし、過去に同一タイトルに「(1) (2) (3) …」を付した連載形式の投稿があり、これは学会誌の性質にそぐわないとしてリジェクトした経緯もあった。

B: 何年も連続して掲載されている著者の投稿論文がボーダーライン上にある場合には、一つの判断材料にはなり得るものの、議論を決定的に左右するものではなく、その時点での編集委員会の判断に委ねるべきではないか。

C: 近年、博士課程の学生に対して博士号取得要件として査読論文の掲載数を求める大学が多いので、連続掲載について制限を設けるべきではない。

以上を踏まえ、野中会長より、論文が、査読を経て公正に審査されたものである限り、連続していても問題とならないとの見解が示された上で、また今後判断に迷う事案が生じた場合には、その都度相談してほしいとの意見が述べられ、これが確認された。

【広報委員会】

- ・ 委員長の本田晃子氏から、HP とメーリングリストの稼働について以下の報告がなされた。
前回 2024 年 12 月理事会～本日までの集計：HP 更新数 97 件（前年 94 件）、ML 数 115 件（99 件）

【学会賞選考委員会】

- ・ 委員長の安達大輔氏から 2026 年度の学会賞推薦の募集が、12 月 1 日から開始されていること、ならびに今後のスケジュールについて報告された。

● 審議事項

1. 2025 年度第 75 回大会実行委員会の総括/会計報告

- ・ 委員長の鳥山祐介氏より配布資料に基づき、参加者数は、プレシンポジウム約 80 名・研究発表会と学会賞受賞記念講演合わせて 160 名であったこと、また当日運営については、名簿の準備に不備があり、初日午前中の受付作業にトラブルが生じたことが報告されたが、概ね円滑に運営されたとの報告があった。また、予算については、会場費が高騰しており、当初予算の 40 万を超える可能性が心配されたが、最終的には予算内に収まったことも報告された。以上が諮られ承認された。
- ・ 懇親会については、今回はじめてアレルギー対応を実施し、1 名利用者がいたことが報告された。ただし、今後この対応を継続するかどうかについては、実行委員会の判断となることが述べられ、これが確認された。
- ・ また、鳥山委員長より、従来、発表資料にパスワードを付けずにオンライン公開していたが、今回はパスワードをかける処置をしたことが報告された。ただし資料のオンライン公開は、コロナ禍の対応としてはじまったものであり、継続する必要があるかどうかについては、今後の検討事項であると意見も併せて述べられた。これに対し古宮路子氏より、昨年度の実行委員会の経験から、当日に配布資料が不足した場合の対応として、オンライン公開（大会開催期間中のみ）が有効であったこと、また QR コードを利用し、来場者がオンライン資料にアクセスしやすいような方策を取っていたことについても報告があった。
- ・ 野中会長から、遠方に住む高齢の会員からは、資料のみでもオンラインで閲覧したいとの要望が寄せられているということ、ならびに配布資料は、本来発表者自身が準備すべきものではないか、という意見が述べられた。以上を踏まえ、本件については今後の委員会の判断に委ねたいとの意見が述べられ、これが確認された。

2. 2026 年度第 76 回大会について

- ・ 次年度大会組織委員会委員長の坂庭淳史氏より、大会組織委員のメンバーが決定されたことが報告され、これが承認された。
- ・ 次年度大会実行委員会委員長の高田映介氏から、配布資料に基づき、研究発表会の日程が 10 月 17 日（土）、18 日（日）、プレシンポが 16 日（金）となること、また会場の施設について報告があり、承認された。また高田委員長より、プレシンポについて現在実施の方向で進めており、具体的な内容については、来年度のシchedロリン生誕 200 周年に合わせた内容にする案が出ていることが報告され、これが確認された。ただし、プレシンポは、一般向けのイベントであることを踏まえ、シchedロリンに関連しつつ、テーマ設定を「検閲と文学」や「政治と芸術」など、より広げた形で検討する必要があることが述べられ、また他に何か良い案があれば、意見を寄せてほしいとの要請があった。

3. 国際参加枠について

- ・ 会長の野中進氏より配布資料に基づき以下の報告があった。国際参加枠は導入から約 10 年が経過し、一定の成果を挙げてきた一方で、近年、運営側の業務負担が過大となってきたことや、正会員との公平性の問題が生じていることが指摘された。これらを踏まえ、国際参加枠の制度について見直しを行うため、ワーキンググループを設置する方針が示された。続いて、当該ワーキンググループのメンバー案として、現執行部から小椋彩氏（座長）、国際交流委員会から高橋沙奈美委員長および古宮路子氏、大会組織委員長経験者として前田和泉氏、大会実行委員長経験者として鳥山祐介氏、学会誌編集委員長経験者として大平陽一氏、事務局経験者として笹山啓氏が提案された。以上が諮られ、これが承認された。

4. 2025/2026 年度日本ロシア文学会国際交流助成について

- ・ 国際交流委員会委員長の高橋沙奈美氏より、配布資料に基づき、例年通り「(1) 国際学会等での報告に関する助成」と「(2) 公開研究会・(ミニ) シンポジウム等の実施に関する助成」を実施予定であるとの報告がなされた。さらに、従来の募集要項における募集期間の設定について不明瞭な点があったため、記載方法を変更することが報告された。以上が諮られ、承認された。なお、次年度以降については、国際枠 WG の議論に合わせて、本助成についても変更が生じる可能性があることも併せて述べられ、これが確認された。

5. 学会誌編集委員の投稿について

- ・ 学会誌編集委員会委員長の平松潤奈氏より、配布資料に基づき、編集委員による投稿に関する報告があった。今回、一編集委員が学会誌 58 号への投稿エントリーを提出したことをきっかけに、編集委員は、投稿可能かどうかについて、編集委員会内で議論が行われたが、この問題は編集委員会内で解決できる性質のものではないので、理事会において、以下の 2 点について審議してほしい旨、要請があった。

(1) 編集委員の投稿を認めるかどうか

(2) 投稿を不可とする場合には、その旨を内規または規約等に明文化すべきかどうか

- ・ これを受けて、各理事から以下のような意見が述べられた。(以下箇条書き)

A: 原則としては、論文の採否は編集委員会の裁量に任されるべきであり、今回のケースも査読は行っていないが、編集委員長の判断でリジェクトしたということになり、この原則に当てはまる。次に、編集委員が投稿出来ないことを明文化するか、という点については、「暗黙の了解」であるよりも、トラブルを避けるためにも「編集委員が投稿する場合は、当該の編集作業に関わるできない」というような規定があったほうが良いと思われる。また他の学会では、同様の規定を明示しているところが多い。

B: 会員は等しく投稿の権利をもつという見解は正しいものだが、編集委員の投稿を不可とする平松委員長の意見に賛成する。その理由は、現実問題として（投稿を可とする意見の中で述べられた）もう一つ別の委員会を設けて、当該の委員による論文の審査を行うという案は、実現困難であり、また編集委員が編集に携われないのは、委員としての機能が失われることであり、やはり望ましくないとと思われる。また明文化については、当初「申し送り」が適当と考えていたが、岩本氏の提案にあったような「不可とする」ではなく、「編

集に携われない」という書き方であるのなら、よいのではないか。

C: 明文化については、会則ではなく内規程度でいいのではないか。

D: 東大のスラブ研究室が発行している査読誌『スラヴィスチカ』では、編集に携わる教員が論文掲載を希望する場合は、無査読の「寄稿」というカテゴリーを選択している。そのような可能性を模索してはどうか。

E: 理想的には、編集委員も一般会員と区別なく投稿が認められるべきだが、編集委員が編集作業から離れることは現実的ではない。そのため、明文化するよりも、あえて曖昧な形を保ち、編集委員会が立ち上がるごとに、投稿が実質難しいことを確認する運用が望ましいのではないか。

F: 会員には等しく投稿の権利があるというのは理解できるが、編集委員長経験者の立場から、編集委員の投稿に際して別途委員会を組織する案は実質的に不可能であると思われる。また、複数の編集委員が同時に投稿を希望した場合、委員会運営そのものが立ち行かなくなるおそれがあるため、現状においては編集委員の投稿は不可と考える。

D: 現状では投稿が難しいという意見には、概ね賛成であるが、編集委員も会員である以上、投稿の権利があり、それを実現できる体制を整える方向で模索していくことが望ましい。

- ・ 以上を踏まえ、野中会長から、本事案である「編集委員による投稿の可否」と「不可とする場合の明文化」についてはいったん執行部預かりとし、引き続き検討していく旨が述べられ、これが確認された。ただし、次号の会誌 58 号については、現委員長の平松氏の意向（編集委員の投稿を不可とする）を尊重し、それに従う方向で進めることが諮られ、これが承認された。

6. ホームページの外注について

- ・ 広報委員会委員長の本田晃子氏より、配布資料に基づき、ホームページ（以下、HP）の外注に関する報告があった。現在、HP の保守管理は特定の一名の委員に委ねられており、一定の謝金を支払っているものの、その負担は大きく、またインシデントが発生した場合には、迅速な対応が困難となることが予想されるとの説明があった。また、現在使用している HP の CMS におけるテーマとして Luxeritas を利用しているが、同テーマの更新は停止状態にあり、今後は新たなテーマへの変更を含め、HP のリニューアルが必要であることが指摘された。これらの状況を踏まえ、本田氏より、HP 外注の提案がなされ、来年 7 月の理事会において審議・承認を経た上で、全国大会終了後に実装するというスケジュール案が示された。あわせて「スタイルエフ」社による見積案が提示された。

これを受けて、野中進会長より、委員の負担軽減に加え、今後はセキュリティ面の強化も必要であるとの認識が示され、HP 外注の方向で検討を進めることが諮られ、これが承認された。

7. JCREES 主催のサマースクールの今後について

- ・ JCREES 幹事の小椋彩氏より、配布資料に基づき JCREES 主催のサマースクールについて以下の報告が行われた。運営資金については、来年度に例年どおり実施した場合、当該資金をほぼ使い切る見込みであることが説明された。この状況を踏まえ、JCREES 幹事会においてサマースクールの今後の在り方について審議が行われた結果、継続を希望する意見が多数であったことが報告された。その上で、新たな財源確保の検討に加え、これまで旅費および滞在費の両方を支給していた補助金の減額、運営方法の見直しや、大学院生に限定する等の対象者の見直し、ならびに各学会が、資金を負担し派遣する制度へ変更することなどの意見がでたことが報告された。また、これらを各所属学会において検討してほしいとの要請があったことが述べられた。

これを受け、以下の意見が述べられた。

A: 開催校となっているスラブ研究センターの立場からは、運営の面で負担はすくなくないものの、大学院生は他大学の学生との交流をもつ貴重な機会となり好評を得ている他、特にここ数年、学部生参加者から毎年、スラブ研究センターへ進学を検討する学生が出てきていることから教育的効果が大きい。これを踏まえ、

補助金の額を調整し、参加者対象は学部生を含む形で継続を希望したい。

B：札幌ではなく、別のもっと安価で実施できる場所やオンライン開催を検討してはどうか。

C：海外の同様のサマースクールでは、滞在費と受講料は無料で、旅費は参加者負担という形式もあるので、こういった方法を検討してみはどうか。

D：元々、原資となったのは、2015年のICCEES幕張大会の時の余剰金1000万円であり、その有効活用を目的として事業が開始されたこと、また当初から資金を使い切ることを想定しており、新たな資金獲得については検討されてこなかった。このような経緯を考えた時、資金がなくなった時点で終了するというのも合理的な判断ではないか。

- ・ 以上を踏まえ、小椋氏より、今回出た意見を来年3月開催のJCREES幹事会に報告し、同幹部会にて改めて審議される旨が述べられ、これが確認された。
8. 次回7月理事会の日程について
- ・ 事務局書記の北井聡子氏より次回2026年7月の理事会の日程について、7月19日(日)となることが報告され、これが確認された。

4. 会員異動（2025年1-12月）

○逝去 ご冥福をお祈りいたします。

藤本和貴男（ふじもと・わきお）（関西中部）

○退会

橘克子（たちばな・かつこ）（関東東北）

西角美咲（にしかど・みさき）（関東東北）

林由貴（はやし・ゆき）（関東東北）

山田隆（やまだ・たかし）（北海道）

山田久就（やまだ・ひさなり）（北海道）

芳之内雄二（よしのうち・ゆうじ）（西日本）

○入会（正会員）

衛藤萌子（えとう・もえこ）（関東東北）

カドチニコフ・ヤコブ（関東東北）

河城瑞季（ごうじょう・みずき）（関東東北）

サンジェーエフ・アムガラン（関東東北）

Todor Vasilev（トドル・ヴァシレヴ）（関西中部）

浜渦理起（はまうず・りき）

林ゆかり（はやし・ゆかり）（関東東北）

Fedorova Anastasia（フィオードロワ・アナスタシア）（関西中部）

山本悠介（やまもと・ゆうすけ）（関西中部）

○入会（学生会員）

池田航輝（いけだ・こうき）（北海道）

小嶋冴（こじま・さえ）（関東東北）

真島亮吉（まじま・りょうきち）（関東東北）

5. 新役員・委員（敬称略）

会長	野中進（2025年全国大会 - 2029年全国大会）
副会長	小椋彩、坂庭淳史（2025年全国大会 - 2027年全国大会）
事務局	北井聡子（2022年全国大会 - 2026年全国大会） 笹山啓（2024年全国大会 - 2028年全国大会）

理事（2025年全国大会 ~ 2027年全国大会）

北海道支部	岩本和久（支部長）、安達大輔 [事務局長：菅井健太]
関東東北支部	楯岡求美（支部長）、秋山真一、阿出川修嘉、大森雅子、恩田義徳、熊野谷葉子、鴻野わか菜、古宮路子（事務局長）、佐藤千登勢、鳥山祐介、沼野恭子、乗松亨平、長谷川章、平松潤奈、八木君人
関西中部支部	齋須直人（支部長）、北井聡子、木寺律子（事務局長）、高田映介、中野幸男、本田晃子
西日本支部	佐藤正則（支部長・事務局長）
顧問	諫早勇一、佐藤純一、沼野充義、望月哲男
監事	三浦清美（2025年全国大会 - 2027年全国大会） 柳町裕子（2024年全国大会 - 2026年全国大会）
JCREES 幹事	野中進、小椋彩

各種委員会（2025年全国大会 ~ 2027年全国大会：*は 2025年大会 ~ 2026年大会）

学会誌編集委員会	平松潤奈（委員長）、大野斉子、小俣智史、恩田義徳、河村彩、畔柳千明、菅井健太、高橋知之、松下隆志、八木君人、山路明日太
学会賞選考委員会	安達大輔（委員長）、伊藤倫、熊野谷葉子、佐藤正則、乗松亨平、堀口大樹、糀内裕子
国際交流委員会	高橋沙奈美（委員長）、古宮路子、齋須直人、楯岡求美、武田昭文、フィオードロワ アナスタシア
広報委員会	本田晃子（委員長）、井伊裕子、梅津紀雄、梶彩子、古賀義顕、宮内拓也
社会連携委員会	高橋健一郎（委員長）、小椋彩、鴻野わか菜、佐山豪太、野町素己、松枝佳奈
倫理委員会	長谷川章（委員長）、佐藤千登勢、澤田和彦、宮川絹代、安野直
大賞選考委員会	村田真一（委員長）、安達大輔、小椋彩、坂庭淳史、高橋健一郎、高橋沙奈美、

	野中進、平松潤奈、本田晃子、長谷川章
2026 年大会組織 委員会*	坂庭淳史（委員長）、梶山祐治、高田映介、鳥山祐介、 フィオードロワ アナスタシア、光井明日香
2026 年大会実行 委員会*	高田映介（委員長）、池澤匠、岡野要、北井聡子、齋須直人、齋藤慶子、五月女颯、 中村唯史、山路明日太、横井幸子

6. その他

2026 年度全国大会は 10 月 17～18 日に神戸大学にて開催されます（16 日にプレシンポジウムを予定）。申請
エントリー受付開始は 5 月初旬の予定です。詳細は後日学会 HP や ML でご案内します。

7. 事務局からのアナウンス

○ 【お詫びと訂正】

前回会報に掲載した新入会員豊島愛子氏研究テーマに誤りがありました。

すでにオンラインデータ版につきましては修正版を配布しておりますが、紙媒体にて会報をお受け取りの皆様
様に向け、改めて正しい情報をお知らせいたします。

（正）ロシア史・チュルク語・スラヴ語・ルーシ・ジョチ・ウルス

本件につきまして、豊島様ならびに会員の皆様に深くお詫び申し上げます。

- 2021-22 年度まで、事務局より会費の滞納のある方に会費の督促を行っておりましたが、2022 年 9 月のシク
ミネット導入後はシクミネットへの登録依頼で会費の督促に代えさせていただいています。年度が間もなく
切り替わりますので、会員ステータスが変わる予定のある方（例：学生会員 → 一般会員）は早めに事務局
（庶務会計）までお知らせください。
- シクミネットに装備された学会 HP 会員検索機能は、個人情報保護に鑑みて発行を停止した学会員名簿に代
わるものです。「会員検索機能」ではダイレクトメッセージ（DM）の送信も可能ですので、どうぞご活用く
ださい。もし運用に困難がある場合は、事務局にお問い合わせください。
- 住所等連絡先の変更は、シクミネット上での手続きだけでなく、事務局宛にも必ずご連絡ください。特に支
部変更を伴う場合は、変更前と変更後の支部事務局にも必ずご連絡をお願いいたします。
- 郵便振替での会費納入は現在も可能ですが、シクミネットへの決済情報の反映には大変時間がかかります。
納入からかなりの時間が経過した後、シクミネットから決済通知の自動送信メールが送られることになりま
すが、何卒ご了承ください。
- シクミネットでの会費納入および決済情報に関してご不明な点がある場合には事務局（庶務会計）までご連
絡ください。

はじめてシクミネットにアクセスする方へ

- シクミネットは 2022 年 9 月 1 日より日本ロシア文学会で採用した会員管理システムです。学会ホームペ
ージ <https://yaar.jpn.org> の上部左端にある「会員ページへのログイン」からシクミネットに入り、マイページ
から会費の決済方法を選択してください。ログインに必要なアカウント ID は学会に登録されているご自身のメ
ールアドレス、パスワードは `wsx27mrk58` となっています。初回アクセス後、パスワードは各自で変更をお願
いいたします。
- 3 年度分以上の会費滞納がある会員については、会員管理システムの都合上、マイページへのアクセス後に
事務局の承認が必要となっております。未納分の決済方法などについて事務局（庶務会計）までご連絡くだ
さい。

○ 初回アクセス時に会費の納入方法を選択していただきますが、クレジットカード（継続決済）または口座振替（継続決済）を選択しますと、手続き後すぐに会費が決済されます。即時決済を行いたくない場合は、ひとまずコンビニ決済または Pay-easy 決済を指定し、後ほど決済方法をマイページから変更してください。

日本ロシア文学会会報 第 55 号（2026 年 3 月 6 日発行）

発行人 野中進 編集人 日本ロシア文学会事務局

〔書記〕 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-8

大阪大学大学院人文学研究科 北井聡子研究室内

〔庶務会計〕 〒 930-8555 富山県富山市五福 3190

富山大学五福キャンパス人文学部校舎 320 笹山啓研究室内

E-mail : yaar@yaar.jp (共通)